
九州新幹線西九州ルート整備促進にかかる決議

西九州新幹線（長崎～武雄温泉）は、開業から2年目を迎え、毎月20万人が利用するなど好調に推移しており、長崎駅周辺では、商業施設や高級ホテルがオープンし、10月には長崎スタジアムシティの開業が予定されているほか、諫早駅、新大村駅周辺においても、新たなまちづくりが進められるなど、新幹線効果が着実に現れている。

引き続き、こうした新幹線効果を最大限に高め、島原半島地域、県北地域、離島地域を含む県内各地へ広く波及・拡大させていくためには、関係団体等との連携を強化し、官民一体となって観光振興や産業振興に取り組み、交流人口の拡大を図るなど、地域活性化につなげていく必要がある。

本県が、こうした百年に一度といわれる変革期を迎えているのは、昭和48年の整備計画路線の決定から、これまで半世紀の間、県北地域の皆様の苦渋の決断など、紆余曲折を辿りながら、多くの方々の熱意と強い信念をもって事業を推進してきた成果であることは言うまでもない。

一方、新鳥栖～武雄温泉間については、未だ整備方式が決定していないが、こうした状況は、あくまでも暫定的なものであり、人口減少が喫緊の課題である本県にとって、全国の新幹線ネットワークにつながり、関西直通運行を実現し、さらなる交流人口の拡大や新幹線効果の拡大を図るためには、一刻も早く全線フル規格による整備が実現されることが望まれる。

現在、整備方式については、国土交通省や佐賀県など、関係者間で協議がなされているところであり、政府・与党に対して、九州地域の活性化や持続的発展のため、早期の整備実現に向けた取組を求める必要がある。また、西九州ルートへの直通運行も視野に入れたJR佐世保線の輸送改善に向けた対応も併せて求めていく必要がある。

そのため、本協議会の各会員が英知を結集し、しっかり連携しながら、開業効果のさらなる拡大及び全線フル規格の早期整備に向けた取組を推進していくことを決議する。

令和6年5月27日

長崎新幹線・鉄道利用促進協議会